

ひきこもり家族会（楠の会小林支部）
不登校親の会準備会

参加して
みませんか？

ひきこもりワークショップ

宮崎大学教育学部の境 泉洋教授を招いて、ひきこもりへの理解や家族の関わり方について学ぶワークショップを開催します。

日時 10月15日（日曜）13時30分～15時30分

場所 社会福祉センター別館大会議室

対象

不登校・ひきこもりで悩みを抱える家族、経験者、ひきこもり支援に関心のある人

問い合わせ 小林市社会福祉協議会 TEL 23 - 3466

いばしょ「まる灯」

ひきこもりなど、生きづらさを抱えて立ち止まっている人、家族以外とのつながりが乏しい人などのための、家以外の安心安全な居場所です。

日時 10月15日（日曜）13時30分～16時

場所 社会福祉センター別館2階和室

対象

社会の中で生きづらさを感じている人

問い合わせ 小林市社会福祉協議会 TEL 23 - 3466

さまざまな世代・立場の人たちの
交流の拠点に立ち寄ってみませんか？

のほり
が目印！

すこっぷハウス

誰でも気軽に集い、安心して過ごすことのできる居場所ができました。今後は、手芸教室やコーヒー教室なども企画される予定です。

日時 毎週火曜・木曜、毎月第2・4土曜
12時30分～16時30分

内容

開設時間内はそれぞれ自由に過ごせます
※火曜は生活自立相談支援センター職員の相談も受けられます

場所

小林市細野 260 番地 1

問い合わせ

小林市社会福祉協議会
TEL 23 - 3466



生活自立相談支援センター
森田直人さん

「スコープ事業」では、世代や立場に関わらず、悩みを抱える人たちの相談を受け止め、各支援機関が手を取り合って対応します。また、社会や人との関わりが難しく孤立している人へは、継続的な見守り支援などで信頼関係を築きながら支援。現在の支援制度では対応できない悩み事には、さまざまな団体が行っているサービスや取り組みなどを組み合わせるなど、悩んでいる人にあわせて柔軟に支援を行っています。

各支援機関が手を取り合い
悩んでいる人を柔軟に支援

「重層的支援体制整備事業（スコープ事業）」の「重層的」とは、いくつもの支援の層が重なりあっていること。重なりあう層の中には、各支援機関が実施する支援だけでなく、住民同士がつながりあう「地域」という層も含まれます。「スコープ事業」では、ご近所同士の顔が見える関係を築くことで、さまざまな悩みを抱える人を早期に見つけ、支援につなげることができる環境をつくることも目指してまいります。

顔の見える関係づくりで
悩みを抱える人を早期に支援



集いの場「ふれあい・いきいきサロン」の様子（東方栗巣野地区）。「スコープ事業」では、既にあるさまざまな取り組みをつなぎあわせていきます

次のページでは、困りごとがあるときの相談先や実際に支援につながった事例を紹介します。



- ㊦ 今年8月にオープンした「すこっぷハウス」。世代や立場を超えて住民同士が交流できる「場」づくりの一環で整備されました
- ㊦ 令和4年度に、「スコープ事業」を担う人材を育成する人材育成研修を開催。研修を通じて支援機関同士の連携も強化されました



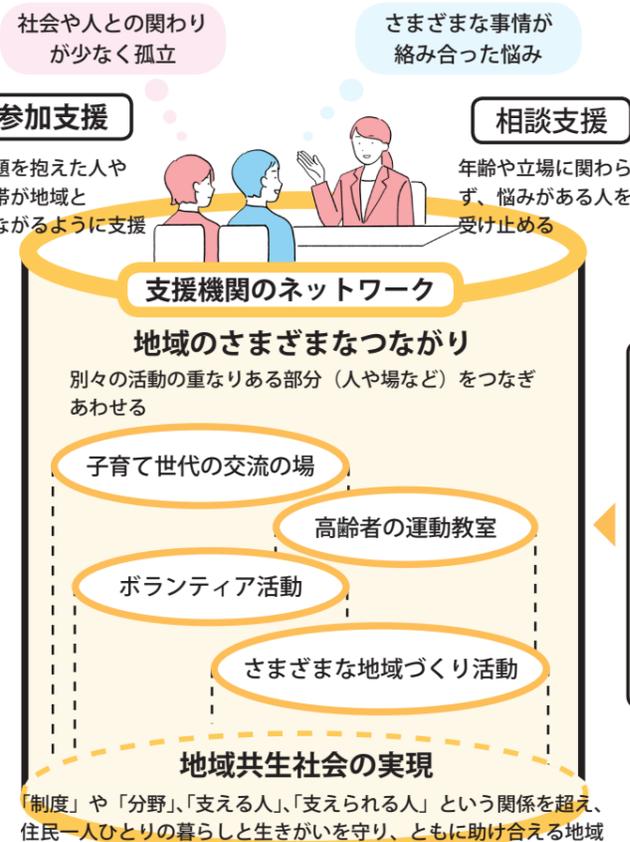
特集

あなたの悩みに寄り添う

「スコープ事業」で一人ひとりが輝ける社会へ

令和5年度から、「いろいろな事情の絡み合った悩み事」を抱える人を『すくい上げる』ことを目指す「重層的支援体制整備事業（愛称：スコープ事業）」が始まりました。特集では、「スコープ事業」の取り組み内容や、困ったときの相談先などを紹介します。

●問＝福祉課 TEL 23-0111



社会情勢の変化などで
複雑化・複合化する悩み事

近年、少子高齢化や人口の減少、地域住民同士のつながりの希薄化など、社会情勢の変化や価値観の多様化によって、地域や家族を取り巻く環境が大きく変化。それに伴って、「子ども」「障がい」「高齢」「生活困窮」などのそれぞれの分野の支援体制だけでは対応しきれない「いろいろな事情の絡み合った悩み事」を抱える人が増えてきました。

悩みを抱える人をすくい上げる
「スコープ事業」がスタート

そのような状況に対応するため、これまでの支援体制や地域づくりの取り組みを活かしながら、複雑な課題を抱える人が身近な場所でも相談を受けられる仕組みづくりなどを目指す「重層的支援体制整備事業」が始まりました。「すくい上げる」という意味の「SCOPE UP」から、小林市では愛称を「スコープ事業」としています。

「スコープ事業」でこんな支援につながりました

実際に寄せられた相談のうち、関係機関などと連携・協力したことで、以下のような支援につながりました。

Case 1 高齢の親が子どもの生活を支えている

80代の親と50代の子どもの世帯。子どもは働いておらず、親の年金で生活している。お金が不足しており、親が必要な介護を受けられない。

子どもは社会とのつながりが乏しく、孤立して、誰にも相談できていない。

生活困窮分野×障がい分野の支援機関が連携

生活自立相談支援センターが生活費などの相談に乗るうちに子どもに障がいがあると分かり、にしもろ基幹相談支援センターが関わって障害年金の手続きを実施。

お金の管理が十分できていなかったため金銭管理の支援を行い、必要な介護を受けることができるようになりました。

Case 2 子どもが不登校

子どもが不登校で、学校やスクールソーシャルワーカー（※）が訪問など行っている。

親が病気で体調が悪く、子どもが家事や年少の兄弟の世話をしている。

※問題を抱えている児童・生徒が置かれている環境に働きかけることで、問題の解決に向けて支援をおこなう専門家

複数の機関で情報を共有 役割分担を行い今後の支援へ

子どもに関わる機関と親に関わる機関、今後この世帯に関わってもらいたい機関を集めて会議を開き、情報を共有。

少しでも状況が改善するように、集まった関係者で話し合い、支援の方向性や役割分担を決め、多方面から継続的に関わることになりました。

Case 3 地域から気になる家庭があると相談

近所とのつきあいが全くない世帯。「生活の様子を見ると、体調面や家事のことなど心配である」と、地域から相談があった。

支援機関側から働きかけ 支援へつなげる(アウトリーチ)

さりげなく訪問して声をかけることを継続し、少しずつ信頼関係を構築。その中で家族の様子を聞き、家族の状況にあった病院の受診を勧めたり、家事などの支援を受けられる制度の利用につなげました。

アウトリーチ…支援が必要であるにもかかわらず届いていない人に対して、訪問支援など、支援機関などの側から働きかけて情報・支援を届けること

巡回相談会

障がいのある人やその家族などからの相談に応じ、情報提供や助言を行います。

日時
10月27日(金曜)
10時～15時

場所
市役所東館
1階小会議室



基幹相談支援センターホームページ▶

抱え込まずに身近な支援機関にお気軽にご相談ください

相談された方の気持ちを受け止め、その人にあった支援を心掛けています。

「スコープ事業」は、私たちにしもろ基幹相談支援センターや社会福祉協議会、地域包括支援センターなどの支援機関のうち、身近な場所で困りごとの相談ができる制度です。

困っていることがあれば、お気軽にお話ください。いろいろな機関と協力して、解決に向けたお手伝いをします。



にしもろ基幹相談支援センター
おおた やすひろ
大田 泰弘 センター長

悩みを抱えていたり、周囲の人が悩んでいたりしませんか？

「生活困窮」、「子育てへの不安」、「不登校・引きこもり」、「心の不調」、「障がい」、「加齢による困りごと」など、いろいろな事情の絡み合った悩み事を持つ人が増えています。身近な窓口相談してみませんか？

さまざまな障がいによる困りごと

子育てが不安

心の不調による困りごと

不登校・ひきこもり

生活が苦しい

高齢者の生活の困りごと

近所に心配な人がいる



どの窓口でも秘密厳守であなたの相談を受け止めます

受け止めた相談は、本人に寄り添って抱える課題の解きほぐしや整理を行い、関係機関で共有。必要な支援につなげます。

福祉なんでも相談窓口

小林市社会福祉協議会 ☎ 23-3466

障がいがある人やその家族の総合相談窓口

にしもろ基幹相談支援センター ☎ 22-2373

生活困窮に関する相談窓口

小林市生活自立相談支援センター ☎ 23-0338

介護や高齢者福祉の総合相談窓口

小林市地域包括支援センター ☎ 25-0707

のじり地域包括支援センター ☎ 44-2271

小林市西部地域包括支援センター ☎ 27-2552

市役所の各窓口

福祉課 ☎ 23-0111 長寿介護課 ☎ 23-1140

こども課 ☎ 23-4319 健康推進課 ☎ 23-0323

いろいろな事情の絡み合った悩み事へは関係機関で協力

個別の機関だけでは対応が難しいような、いろいろな事情が絡み合っている悩み事の場合は、原則として本人の了承を得て、関係機関のネットワークで課題を共有。関係機関間の役割分担や支援の方向性の整理などを行います。



関係機関で課題を共有、役割分担や支援の方向性を話し合う「重層的支援個別会議」の様子

社会や人との関わりが少なく孤立しており
必要な支援が届いていない

相談者との信頼関係を構築し、継続的に支援
家庭訪問などによる丁寧な働きかけなど継続的な見
守り支援を行い、関係性を築いていくなかで、必要
に応じて制度や支援に関する情報を提供します。

今ある事業では対応できない、
制度の狭間にある困り事

本人にあった支援をマッチング
さまざまな団体がやっている取り組みを組み合わせ
ることで、それぞれの相談者に合ったサービスや活
動をマッチングします。